



みやけ で あ こま と き  
三宅さんと出会えたこと、困った時に  
はいつも相談にのってもらえたこと、  
こころ かんしゃ ほんとう いま  
心から感謝しています。本当に今まで  
ありがとうございます。そして、最後まで  
じぶん たしや きづか  
で自分のことより他者のことを気遣って  
いた三宅さんのことを、心より尊敬し  
ています。もう会えないと思うと辛いで  
すが、三宅さんはきっと私たちのこと  
みまも おも  
を見守ってくださっていると思うので、

なん ちから いまのこ  
何とか力をふりしぼって、今残された  
メンバーと、どうすれば三宅さんの意志  
う つ などなど  
を受け継いでいけるのか等々ちゃんと  
はな あ かい あゆ  
話し合い、これからのペンギンの会の歩  
かんが おも  
みを考えていきたいと思えます。どう  
みな かい  
か皆さん、これからもペンギンの会をお  
ささ ねが  
支えください。よろしくお願ひします。

イ チョンミ  
李清美

## みやけみつお はっしょう な けいい 三宅光男さん ガンの発症から亡くなるまでの経緯

ねん  
2013年

がつ  
5月

こうくうない いわかん いた かん はじ  
口腔内に違和感・痛みを感じ始める。

がつ  
6月

きょうとみなみびょういん たけだびょういん しんさつ けんさ のち きょうといりょう びょうめい こうくうてい  
京都南病院、竹田病院での診察・検査の後、京都医療センターへ。病名が「口腔底  
ガン」であることが告げられる。

がつ  
7月

きょうといりょう しゅじゅつ どうしょよてい なが じかん よう しゅじゅつ せいこう こうくうない  
京都医療センターにて手術。当初予定より長い6時間を要するも手術は成功。口腔内  
しゅようぶぶん ぜっこん いちぶ したまえばちゅうおう みぎおくば しゅうへん せつじょ  
の腫瘍部分、舌根の一部、下前歯中央から右奥歯および周辺のリンパを切除。

がつ  
8月

きょうといりょう たいいん した いちぶ せつじょ かんけい えんげ ししょう で いご  
京都医療センターを退院。舌の一部を切除した関係で、嚥下に支障が出るように。以後、  
しよくざい ふんさい うえ しよくじ しゅじゅつ かんけい げんごしょうがい  
食材をミキサーで粉碎した上でとろみをつける食事に。また、手術の関係で言語障害  
つよ  
も強くなる。

ねん  
2014年

がつじょうじゅん  
2月上旬

きょうといりょう ていきけんしん くび ひだりがわ みぎみみ かぶ しゅうみ こうくうてい  
京都医療センターの定期検診にて首の左側、右耳下部に腫瘍が見つかる。口腔底ガン  
さいはつ  
の再発。

がつげじゆん  
2月下旬

きょうといりょう しゅじゅつ くび ひだりがわ みぎみみ か ぶ しゅよう くびまわ せつじよ  
京都医療センターにて手術。首の左側、右耳下部の腫瘍および首回りのリンパを切除。  
しゅじゅつじかん どうしよよてい じかん おおはば こ じかん よう  
手術時間は当初予定の2時間を大幅に超え、5時間を要した。  
しゅじゅつよくじつ ほんにん うった のう けっせん み ぼ けっせん と くすり  
手術翌日に本人がめまいを訴え、脳に血栓が見つかる。その場は血栓を溶かす薬で  
たいおう  
対応。

ふつかご のうかんこうそく いんしよくぶつ おうと と ぶつ はい りゆうにゆう ごえんせい  
さらに、その二日後に脳幹梗塞による飲食物の嘔吐。吐しゃ物が肺に流入し、誤嚥性  
はいえん お じはつこきゆう ごんなん きゆうきゆうきゆうめい はい じんこうこきゆうき  
肺炎を起こす。自発呼吸が困難になり救急救命センターに入り、人工呼吸器をつけ  
る。

ごきせきてき こきゆうきのう かいふく せいめい じょうきょう だつ きゆうきゆうきゆうめい  
その後奇跡的に呼吸機能が回復し、生命にかかわる状況を脱する。救急救命セン  
しゅうちゅうちりょうしつ いどう ごいっばんびょうとう  
ターから集中治療室へ移動、さらにその後一般病棟へ。

がつ  
3月

のうかんこうそく えいきょう えんげのうりよく いちじる ていか じょうじかる ごえん お  
脳幹梗塞の影響で嚥下能力が著しく低下しており、常時軽い誤嚥を起こしている  
じょうたい しつとうい せつめい ごえんぼうし きかんしよくどうぶんにしゅじゅつ ていあん  
状態との執刀医からの説明。誤嚥防止のため気管食道分離手術を提案される。その  
しゅじゅつ こえ うしな あ つた ほんにん しゅじゅつ けつだん  
手術により声が失われることが合わせて伝えられるが、本人はすぐに手術を決断。

がつ  
4月

きょうといりょう しよくどうきかんぶんにしゅじゅつ じかん しゅじゅつ すえ ぶじ せいこう いご  
京都医療センターにて食道気管分離手術。4時間の手術の末、無事に成功。以後、コ  
もじばん つか おこな  
ミュニケーションは文字盤を使って行うようになる。

がつ  
5月

たいいん いご のど きかんこう ほしつ しよう きかんこうしゅうへん  
退院。以後、喉の気管孔を保湿するためのネブライザーの使用および気管孔周辺に  
たん じよきよ たんきゆういん ひつす しよくじ きざ しよく のうかんこうそく  
たまった痰を除去するための痰吸引が必須になる。食事は刻み食に。また、脳幹梗塞  
えいきょう みぎうで のこ  
の影響により右腕にマヒが残る。

がつ  
9月

ひだりあご きょうといりょう かもうせい たか しんだん う  
左顎にふくらみができる。京都医療センターでガンの可能性が高いとの診断を受ける。

がつ  
10月

けんさ けつか こうくうてい さいはつ はんめい はんめいご きょうといりょう にゆういん しゅじゅつ  
検査の結果、口腔底ガンの再発と判明。判明後すぐに京都医療センターに入院、手術  
おこな じかん しゅじゅつ すえ ぶじ せいこう ひだりがわ じか あご おお せつじよ  
を行う。8時間の手術の末、無事に成功。左側の耳下から顎までを大きく切除。また  
くびみぎがわ せつじよ せつじよぶぶん ひだりだいきょうきんひ しゅじゅつちよくご しよくじ  
首右側のリンパも切除。切除部分には左大胸筋皮をあてがった。手術直後は食事の  
けいこうせつしゅ けいひ けいかんえいよう じよじよ けいこうせつしゅ  
経口摂取はできず経鼻経管栄養であったが、徐々に経口摂取できるように。

がつ  
11月

たいいん しゅじゅつ あご ちい かんけい しゅじゅつまえ そしゃく しよくじ  
退院。手術により顎が小さくなった関係で手術前よりさらに咀嚼しにくくなる。食事  
こま きざ しよく  
はより細かい刻み食に。

2015年  
12月

京都医療センターにて大腸の内視鏡検査を受けたところ、腫瘍が見つかる。後日、さらに詳しい検査を受けることに。

2016年  
1月

京都医療センターにてPET検査。その結果、顎、肺、大腸にガンが見つかる。今後の治療方針について、各科の医師らと相談していくことに。

2月

医師との相談の結果、三か所のガンについて積極的治療は今後行わないことを本人が決断する。自宅で今まで通りの生活を送り、必要になった段階で緩和ケア病棟を利用することに。

3月

京都医療センターの緩和ケア病棟を見学する。  
意識を失い転倒し救急搬送。救急車の車内ですぐに意識回復。一晩だけ入院。

5月

めまい、血色悪化で救急搬送。点滴の上、その日のうちに帰宅。数日後にまた意識を失うも静養後に意識は回復。この頃から血圧が乱高下し始める。

6月

痛み止め薬を飲むように。痰に血が混じり始める。時折多量の出血。

7月中旬

ペンギンの会の会議の後に体調悪化。翌早朝、痰の量の著しい増加および高熱のため救急搬送。救急医療室および呼吸器科での診察の結果、すぐに処置が必要な状態ではないとの診断。この日以降、痰が頻繁に溜まり、かなりの頻度での痰吸引が必要な状態になる。また、一気に食欲が落ち、アルコールも飲まず、一日の大半の時間をベッドで過ごすように。

8月7日

三宅さんたちの希望で企画された「ペンギンの会 納涼会」が開催される。京都および全国から障害者仲間が集う。しかし、ご本人は体調が優れず欠席される。

8月9日

夕方方に肺から多量の出血。京都医療センターに救急搬送されるも、19時25分に永眠される（享年67歳）。

みやけ ことば つど そのつど  
**三宅さんの言葉 その都度 そのつど**  
 ユグチマコト

しょうがいしゃ しょうがいしゃどうし ちよくせつ はなし  
 『障害者は障害者同士で（直接）話を  
 していかなアカン！』



みやけ な  
 三宅さんがお亡くなりになりました。た  
 だ、つらく哀しい中でも、私 たちペンギ  
 ンのメンバーおよび三宅さんと関わりのあ  
 った全国の自立障害者の自立生活は続  
 いていきます。それぞれの立場で気張って  
 行きましょう。

みやけ ほんとう  
 ここでは三宅さんにユグチが本当にお  
 世話になっていた頃を少し振り返ります。  
 なか つよ こころ ひび しょうがいとうじしゃ  
 その中で、強く心に響いた、障害当事者  
 としてずっと問い続けねばならない三宅さ  
 んの言葉について書かせてもらいます。

じりつせいかつ はじ ねんちか まえ  
 自立生活を始めた 20年近く前、ユグチ  
 はまだ軽度障害で、車いすで生活をし  
 ておらず、暮らしの資金は、ここでは詳し

か ひとり かんぜん せいかつ  
 く書きませんが、一人で完全に生活してい  
 くにはかなりの無理がありました。

とうじおな ふしみく ちか す  
 当時同じ伏見区のすぐ近くに住んでいた  
 こともあり、三宅さんのご厚意で、お宅で  
 たびたび食事をさせて頂いたことを始め、  
 とても書き尽くせないぐらい、ほぼ居候に  
 近い状態で、いくら感謝しても足りない  
 ほどのお世話になってきました。親子ほど  
 の年の差（23歳差）で、三宅さんにここま  
 で物心両面で支えて頂いていた障害  
 当事者は、おそらくユグチだけだと思います。

みやけ こうなん ごうほうらいらく  
 三宅さんの硬軟とりまぜた豪放磊落か  
 つ繊細無比な言動には、近年亡くなった、  
 あるカリスマ噺家（立川談志）のそれを感じ  
 させるものがあり、いつも周囲の人を明  
 るい気持ちにさせておられた三宅さんに対  
 して、ユグチは終始圧倒させられ通しで、  
 正直ついていくのがやっとでした。

いっけん げんどう じつ  
 「一見、言動メチャクチャやけど、その実  
 メチャクチャ繊細」  
 しょうがいしゃ けんじょうしゃ くべつ いみ  
 障害者・健全者の区別なく、いい意味で  
 も悪い意味でも、あそこまで天衣無縫で、  
 たがはず ひと いま であ  
 かつ箍の外れた人に今まで出会ったこと  
 がありません。

いだい はなしか でし  
 偉大な噺家と、そのダメな弟子のような  
 かんけい ねんちか あいだ みやけ  
 関係で、20年近くの間、三宅さんからは、  
 またしてもここでは書き切れないぐらい、  
 さまざま しさと ことば き  
 様々な示唆に富んだ言葉をお聴きしました。

ユグチはその後、進行性ゆえに障害が  
重度化するにつれ、住まいも、市営の車い  
す住宅に移りました。それからは、  
大学生を中心とした介護者や、自立生活  
の趣旨に賛同して下さる他の介護派遣  
事業所の皆さんとの新しい出会いがいく  
つもあり、そのおかげで現在は日々の介護  
にほとんど不自由することなく自立生活を  
送れています。

ただ、それを境に、障害の進行が主な  
原因で、三宅さんが住んでいた通常型の  
ワンルームにもお邪魔しづらくなり、いつ  
も問わず語りで聴かせてもらっていた自立  
生活がらみの様々なお話しに触れるという  
機会も次第に遠のいていきました。

そこで、冒頭のことば  
にちじょう どうさ かいご ひつよう  
日常の動作すべてにおいて介護が必要に  
なってくると、どうしても健常者である  
介護者と話をすることが多くなり、またこ  
ちらの意図を正しく伝えようとするやりと  
りは、とくに頭への疲れが相当に来てし  
まうこと多く、介護者が帰る時には、ユグ  
チを寢床につかせてもらってから出てもら  
わなければならないぐらいに消耗しきつ  
てしまうことが度々あります。

そうなってしまっていて気づいてみると、知  
らずしらずのうちに他の障害者の方との  
交流がどうしてもおろそかになるといい

ますか、自身の介護に気をとられるあまり  
に、殆ど自分以外の障害者と話をしな  
くなってしまふことがよく起こってしま  
います。

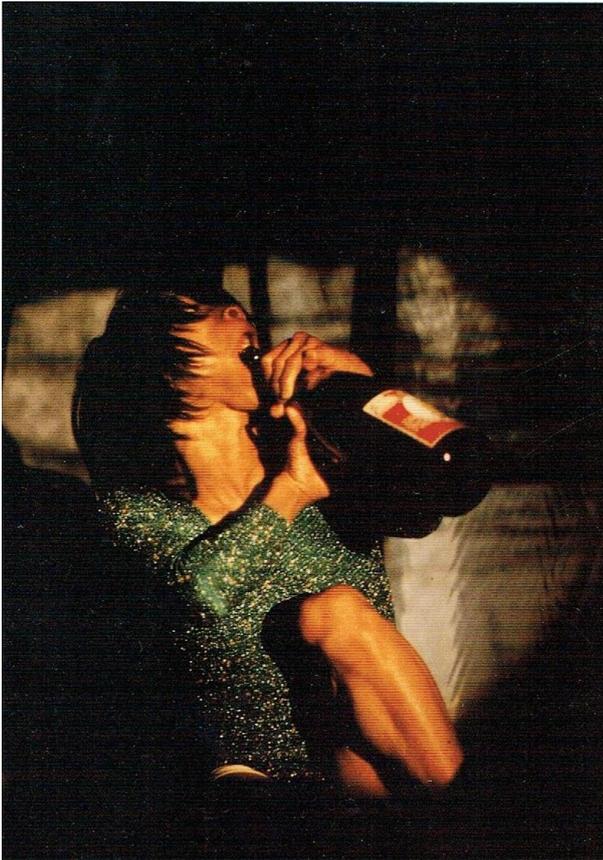
その点を三宅さんはとても憂慮してお  
られ、ペンギンの会議のたびに、そんな  
状態になっては絶対にイカンと、冒頭の  
言葉を口を酸っぱくして話して、いや、話  
すというより、ほとんど怒りの口調で指摘  
しておられ、そのたびにへこまされ、反省さ  
せられることが度々でした。

この言葉は、介護が充実している上で、さ  
らに自分たちは何をしていくのか？というこ  
と念頭に置いて生きる自立障害者には、  
本当に重たいものがあります。

じりつせいかつうんどう しょうがいぶんか い  
自立生活運動は障害文化だという言葉  
れ方を時に耳にすることがありますが、そ  
の文化を創っているもの同士が、実際はあ  
まり交流ができていない…仮にそんなこ  
とがあったならば、日頃、介護を利用しつ  
つ地域での生活をしているのは何のため  
なのか…という根本的な話になってしま  
います。

みやけ けいこく はっ  
三宅さんがずっと警告を発しておられ  
た危機感そのものであるこの言葉、常に  
自分たちへの戒めとしなければ…です。

やくしゃ 役者としてのの みやけ 三宅さん も すご 凄かった



1984年『色は臭へどⅡ』に出演時の三宅さん  
撮影：天鼓

ねん がつこのか 2016年8月9日19:25 みやけみつお 三宅光男さんが  
はいがん あつか 肺がんの悪化により さい な 67歳で亡くなってしま  
わられた。

ふつかまえ がつなのか にち ゆうがた みやけ  
その2日前、8月7日(日)夕方には三宅  
さんていあん さん提案による『ペンギンの会 かい のうりょうかい  
がひら 開かれ、えんぼう 遠方からか きゆうゆう  
かたがたふく やく めい 駆けつけた旧友の  
あつ 方々含め約80名の方々が集まってくだ  
さったが、いつもならそこになくはならな  
みやけ さい 三宅さんの姿はなかった。直前まで  
みやけ したが 三宅さんは出席するつもりでおられたら  
みやけ しゅつせき  
しいが、ざんねん とうじつ けつあつ ひく  
たいちょう かんば 残念ながら当日の血圧が低く  
だんねん 体調が芳しくなかったため断念された  
えんぼう こ なんめい  
らしい。それでも遠方から来られた何名か

みやけ じたく みま ときは三宅さんを自宅に見舞われた。その時の  
しゃしん つ や ひ エスエヌエヌ  
写真がお通夜の日だったかSNSの  
フェイスブックにアップされたのを見て、私  
わたし  
おも 思わず「ああ、この時に戻ってほしい…」  
おも とき もど  
と思った。その写真の表情からは2  
かご な おも  
日後に亡くなるとはとても思えなかった。  
じたく いす すわ きゆうしゅう こ  
自宅の椅子に座って九州から来られた  
ケー なら か げんき  
Kさんと並ぶいつもと変わらない元気そ  
えがお みやけ うつ  
うな笑顔の三宅さんが写っていた。

おも みやけ 思えば三宅さんはいつもそうだった。今  
いま  
までのペンギンニュースで逐一お知らせし  
ちくいち し  
たように、たびかさ 度重なるこうくうてい さいはつ  
たぶかさ こうくうてい さいはつ  
たように、度重なる口腔底ガンの再発や  
のう こうそく へいはつ ごえん ふせ  
脳梗塞の併発による誤嚥を防ぐため  
しよくどう きかん ぶんり しゅじゅつ あと  
食道と気管を分離された手術の後、  
もじばん はな みやけ  
文字盤で話されるようになって三宅さん  
なにごと  
は何事もなかったかのようにますます  
べんぜつ じょうだん どお  
弁舌はシャープになり、冗談はいつも通  
りだった。そのかわらないようす きじょう  
りだった。そのかわらない様子は「気丈に  
な ひょうげん  
も」などという並みの表現をはるかに  
ちようえつ みやけ びいしき かん  
超越し、三宅さんの美意識が感じられた。

わたし みやけ はじ であ  
私が三宅さんと初めて出会ったのは、  
ねん きむまんり げん げきだんたいへんしゅさい  
1981年に金満里さん(現・劇団態変主宰)  
もとあお しば なかま きかく きょう  
ら元青い芝の仲間たちで企画され、京  
だいせいぶ こうどう かいさい  
大西部講堂で開催されたコンサート  
こくさいしょうがいしやねん と  
『国際障害者年をぶっ飛ばせ!!』の  
ぜんじつ とうじ わたし しょぞく  
前日だった。当時から私が所属していた  
ひつじ かい しょうがいしや  
「羊の会」という障害者のグループで  
そのコンサートに参加しようといきさつ  
さんか あいさつ  
かいじょう したみ い とき せいぶこうどう まえ  
会場の下見に行った時に、西部講堂の前  
じ すわ ご つ はけ  
の地べたに座り込みペンキを付けた刷毛を

大胆に振るい、楽しそうに立看板の文字  
を書いておられたのが三宅さんだった。そ  
のとき以来、同じく出会った高橋公子さん  
を介してペンギンの会の皆さんと親しく  
させていただくようになった。

その後1983年6月に同じ西部講堂で、  
劇団態変の旗揚げ公演『色は臭へど』が  
上演された時、私は観客席の一番前  
に陣取って興味津々で観ていたら、酔っ払  
いの役(?)で出て来たサービス精神たっ  
ぷりの三宅さんにしっかり絡まれ、観客  
冥利に尽きた。三宅さんは翌年の『色は臭  
へどⅡ』にも出演されていた。後に私も  
入団し、2005年に『色は臭へど4』を演  
ることになった時、三宅さんがかつて演られ  
た酔っ払い役から学ばせてもらおうと  
1984年の『色は臭へどⅡ』のビデオの三宅  
さんの登場シーンを繰り返し観たことが  
あった。酔っ払って客に絡むシーンとそ  
の後に登場する女性Sさんと取っ組み  
合いの果てコテンパンにやられるシーンが  
あるのだが、そのどちらの動きも自然で切  
れがあり全く無駄がない。演じられた当時  
から20年程も経っているのに古びた感じ  
がせず、演技が新鮮に見えて感服してしま  
い、とても真似できるものではなかった。

高橋公子さんが存命中はペンギンの  
会の集まりにも頻りに顔を出させていた  
だいたが、2003年に亡くなってからは一時  
あまり参加できていなかった時期があった。

そんな時でも三宅さんは不義理をしていた  
私のことまで「どうしてるやろ？」と気に  
かけてくださったり、京都に帰って来た時  
も温かくペンギンに迎え入れてくださり、  
そのおかげで今がある。さりげなく温かい  
心遣いに感謝してもしきれない。

そんな三宅さんに今後の課題で指摘され  
たことの一つに、「繁ンともそろそろ  
介護者をオルグせえ」と。事業所から派遣  
されるヘルパーにばかり頼るのではなく、  
自分でボランティアの介護者を募って育て  
る苦労を経て、初めて障害者が地域で  
自立生活をするこの意義が見えてくると  
いうことを教えてくださったのだと思う。

相模原の施設での大虐殺事件のような  
ヘイトクライムが起こされてしまった今、  
誰でもがもっと生きやすい社会にするた  
め、障害者が臆することなく今まで以上  
に健常者と関わって、もっと多様な  
価値観が同じ社会に生きていることを知  
らせる大事な役目があると感じる。三宅さ  
んはこれからも私たちを見守っていてく  
ださることを感じながら、更に勇気を持っ  
て踏み出そう。三宅さん本当にありがとう  
ございました。

しげともこ  
繁 朋子

わたし きおく なか みやけ  
私の記憶の中の 三宅さん

みやけ つや せき じ こしょうかい  
三宅さんのお通夜の席で自己紹介のと  
とつぜんごうきゆう しげしゅうさく  
きに突然号泣してしまっただ繁周作です。  
(^^ゞ

わたし みやけ はじ あ  
私が三宅さんに初めてお会いしたのは  
ねんしよか ころ いのうえともこ げんざい つま  
2013年初夏の頃、井上朋子（現在の妻）  
つ かい はじ い  
に連れられてペンギンの会に初めて行った  
とき いま まるさんねん すこ まえ  
時でした。今から丸三年と少し前のことで  
す。

れきし わたし ねん じんせい  
ペンギンの歴史や私の60年の人生と  
くら みじか あいだ つきあ  
比べればほんの短い間のお付き合いでし  
たが、それでも、三宅さんの死は私にとっ  
そうしつかん おお かな ふか できごと  
ても喪失感は大きく、悲しみ深い出来事  
でした。

なか わたし もともとかんじょう  
そんな中、私は元々感情をコントロ  
ールするのが苦手な方なので「醜態を晒  
わたし おさ  
すまい」と私なりに抑えてはいたのですが、  
つや せき みやけ おも で はな  
通夜の席で三宅さんの思い出を話そうと  
しゅんかん おさ かな いっき  
した瞬間、抑えていた悲しみが一気に  
ばくはつ こと は  
爆発し、あのような事になってしまいお恥  
かぎ わたし  
ずかしい限りですが、「それだけ私にとっ  
みやけ さんざい おお あかし ちが  
て三宅さんの存在が大きかった証に違  
おも  
ない」とも思います。

みやけ おも で  
さて、三宅さんの思い出ですが…。  
しよたいめん いんしやう しつれい し  
まず、初対面の印象は、失礼かも知れ  
み め わたし どうねんだい  
ませんが見た目には「私と同年代くらい  
かん み あと さいとしうえ  
の感じ」に見えましたが後から「8才年上」  
し すこ おどろ いま おも  
と知り少し驚きました。今から思うと「そ  
げんき かつりよく ひと  
れだけお元気で活力がある人だったんだ  
おも  
ろう」とも思います。

なに みやけ おさけ だいす  
そして何より三宅さんは御酒が大好きで、  
おさけ はい くち まわ  
御酒が入ると口がよく回るようになり、な  
た しやべ  
んか絶えず喋られていたような記憶が残  
きおく のこ  
っています。(^^ゞ

おな しょうがい のうせい  
しかしながら同じ障害（脳性まひ）で  
たが げんごしょうがい わたし  
互いに言語障害があり、おまけに私は  
なんちやう かいわ むずか  
難聴でもあり、なかなか会話は難しく、  
かいわ きおく  
ろくに会話しただ記憶はほとんどありません。  
いま なに さんねん  
今となってはそれが何より残念でなりま  
せん。

みやけ で あ ちよくご  
そんな三宅さんでしたが出会って直後の  
ねん がつ みな しょうち とお  
2013年6月、（皆さんご承知の通り）  
こうくうてい はっけん せつじよしゅじゅつ  
口腔底ガンが発見され、その切除手術  
う ご さいはつ さいしゅじゅつ  
を受けられ、その後もガンの再発・再手術、  
のうこうそく ごえんせいはいえん いくど  
脳梗塞、誤嚥性肺炎などなどで幾度も  
せいめい きき そうぐう の こ  
「生命の危機」に遭遇しながらも乗り越え  
かてい こえ うしな  
られました。が、その過程で声を失われ、  
いこう もじぼん かいわ  
それ以降は文字盤での会話となりました。

すく み め  
それでも少なくとも見た目にはめげるこ  
な みやけ つらぬ  
と無く三宅さんらしさを貫かれたことは、  
せいめいりよく せいしんりよく かんぶく  
その生命力と精神力に感服するばかり  
りでした。

ほんにん ふほんい もう わけ  
ご本人は不本意でしょうし申し訳ない  
わたし きおく なか もじぼん  
のですが、私の記憶の中では「文字盤で  
しやべ みやけ ほう おお のこ  
喋る三宅さん」の方が多く残っています。  
むろんみやけ かが  
無論三宅さんは「もどかしい限り」だっ  
わたし みやけ  
たでしょうが、私にとっては三宅さんとの  
ことば しょうへき いぜん いしそつう  
言葉の障壁がなくなり以前より意思疎通  
がしやすくなりました。

みやけ もじばん つか はっ  
三宅さんが文字盤を使って発せられるお  
ことば い おも  
言葉は言いたいことや、その思いが  
きゆうきよくてき ぎょうしゆく やさ  
究極的に凝縮されていて、優しさ・  
あたた きび きくば おもしろ  
暖かさ・厳しさ・気配り・面白さがスト  
つた  
レートに伝わってきました。

なか ことし ねん ごろ  
そんな中で今年（2016年）のはじめ頃、  
ていきしんだん たはつせい はっけん  
定期診断で多発性ガンが発見されことが  
あき ははおや な わたし  
明らかになり、母親をガンで亡くした私  
にとつては「ついに来たか！」と目の前が真  
くら  
っ暗になりました。

わたし で き みやけ  
それで私は「出来るだけ三宅さんの  
ころざし ひ つ おも た なに  
志を引き継ぎたい」と思い立ち、「何か  
ら聞いて良いか」迷ったのですが、私の中  
もつと おお なぞ かんさいあお しば かい  
で最も大きな謎だった「関西青い芝の会  
な ぜかいさん りゆう き  
が何故解散したのか？その理由を聞かせて  
ほ たず  
欲しい」と尋ねたのでした。

みやけ きび かお  
すると三宅さんはちょっと厳しい顔にな  
られて「それは言いたくない」と…。

わたし き き  
私は「聞いてはいけないことを聞いてし  
まったかな？」とちょっとドキッとしてリ  
アクションに迷っていると、三宅さんは続  
けて「まだ残って頑張ってるものも居  
るのでワシがどうこう言うことはできん」  
とのことでした。

ちゆうとはんぱ ちしき ちゆうとはんぱ しつもん  
「中途半端な知識で中途半端な質問を  
はんせい むかし  
してしまった」と反省するとともに、「昔  
なかま きくば で き ひと  
の仲間にも気配り出来る人なんだな一。  
ひと たば ひきつ うんどう ひと  
やはり人を束ね引連れて運動してきた人  
なんだな一」と改めて思いました。

どうじ みやけ ころざし き  
それと同時に「三宅さんの志を聞くな

むり さと あきら  
んで無理なことだ」と悟り諦めました。

わけ みやけ ころざし たいへん  
そんな訳で三宅さんの「志」は大変  
ざんねん ちよくせつてき き  
残念ながら直接的には聴けませんでしたが、  
みやけ ことば ひと ひと  
が、これからは三宅さんのお言葉を一つ一  
おも だ た しょせんばいがた  
つ思い出しながら、また他の諸先輩方から  
きょうじゆ いっぽ  
もご教授いただきながら、一歩でも  
しょうがいしやうんどう ぜんしん  
障害者運動が前進するようにペンギン  
なかま かんけいしや みなさま とも あゆ い  
の仲間や関係者の皆様と共に歩んで行き  
たいと思っています。

は さい わり  
恥ずかしながら歳の割にはまだまだ  
みじゆく わたし ねが いた  
未熟な私ですがよろしくお願い致します。

じぶん はなし おお  
なんだか自分の話が多くなってしまい  
みやけ ついとうぶん  
ましたが、これを三宅さんへの追悼文とさ  
いただ  
せて頂きます。

しげしゆうさく  
繁周作



ことし がつ みやけ わたし かんれきいわい  
今年4月に三宅さんが私の還暦祝にくださった  
にんぎょう わ や うえ お  
ゴリラの人形。我が家のテレビの上に置いてあ  
みやけ みまも くだ  
り、三宅さんがいつも見守って下さっているよう  
かん  
に感じています。

ぼく みやけ かか ねんらい わた  
 僕と三宅さんとの関わりは 20年来に渡っ  
 て東家ともども公私に付き合ってもらいま  
 した。三宅さんからは自立障 害者として  
 の生き様を見せてもらいました。また、私  
 が大学進学の際には経済的支援をしてい  
 いただきました。ここに 改 めて三宅さんのご  
 冥福をお祈りします。

あずまじゆんのすけ  
 東 純 之 介



## みやけ おも いて 三宅さんの思い出

であ  
 出会い

みやけ であ ねん まえ  
 三宅さんとの出会いは、20年ほど前、  
 ペンギンの会の花見（宇治塔の島）の席で  
 した。当時故高橋啓司さんの介護に入った  
 ところでした。まだ介護は10回にも満た  
 ず、しかも入浴介護ばかりでした。20  
 年前は公的介護制度も整っておらず、街  
 で障害者を見ること自体が珍しい  
 状態がまだまだ続いていました。  
 啓司さんとともに集合時間より早く  
 会場についたのですが、そこで三宅さんに  
 初めてお会いしました。三宅さんは花見の  
 場所取りをしており、すでに足もとにビー  
 ルの空き缶の山を築いていました。正直  
 な話、こんな障害者がいるのかとびっく  
 りしたことを覚えています。まだ、啓司さ  
 んとの付き合いも浅く、世間に作られた  
 障害者像が強くこびりついていたのです

とき けいじ かいご  
 ね。その時は啓司さんの介護もあり、ペン  
 ギンのほかのメンバーもそれぞれ印象的  
 だったので、それ以上にはお付き合いが深  
 まりませんでした。その後何度となく  
 杯を交わすこととなりました。

の  
 いっぱい飲ませてもらいました

けいじ ときおりみやけ たく ほうもん  
 啓司さんは時折三宅さんのお宅を訪問  
 しており、介護でご相伴にあずかることも  
 多かったです。20年前はみなさん元気で、  
 腕がつかれるほど酒を買い、それもなくなって  
 また買出しに出たりしてしていました。そのま  
 ま預かった財布を自宅に持ち帰ってしまっ  
 てあわてて届けに行ったこともありました。  
 そのうち介護抜きでもおよばれされること  
 も増え、思えばうまい酒とつまみはほとん  
 ど三宅さんに教えてもらったように思いま  
 す。  
 ばんねん とうびょうせいかつ けっこうさいご  
 晩年の闘病生活でも、結構最後のほう  
 まで病院の帰りは買い出しが基本でした。  
 じぶん の いじょう  
 自分が飲むこと以上にかかわっている周

ひと ふるま いんしょう  
りの人たちに振舞っていたような印象も  
ありました。

おこ  
怒られたことも

むかし ひと むかし  
昔からかかわっている人からは「昔は  
こわ 怖かった」ということも聞きますが、私  
が 知っている20年は三宅さんの人生の中  
では比較的「温厚」な時期だったように思  
います。それでも怒られることもありまし  
た。ある日啓司さん主催の飲み会で、別の  
啓司さんの介護者から話しかけられて話し  
ていると、「お前ら、ここをどこだとおもっ  
とるんか！」と雷が落ちました。介護者が  
啓司さんそっちのけで自分たちの話をす  
る、こういうことを見つけたら絶対許して  
くれませんでした。そういう時の三宅さん  
は本当に迫力があり、しかも言っている  
ことが筋もおっているので、小さくなっ  
たものです。普段はにこにこしていたけれ  
ど、障害者を置き去りにすることへの怒  
りは決して手放さない方でした。

みなみ まもる かい  
南 守 (ペンギンの会 スタッフ)



みやけ たわら  
三宅さんとスタッフの田原  
ほんしん かんれんほん とも  
阪神タイガースの関連本と共に

## みやけ 三宅さんのこと

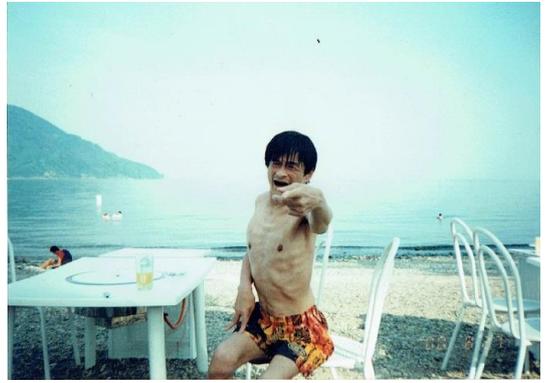
みやけ こと なに か  
三宅さんの事について何か書いてくれと  
いわれ、ふたへんじ「いいですよ」と受け  
たものの、三宅さんについて書くことは何  
も無いなあと思ってしまいました。もし  
三宅さんが何かメッセージのようなものを  
残していたとすれば、それは全て自分が  
生活する姿において語っていたのではな  
いかと思います。

なに おも で かた  
では、何か思い出のようなものを語ろう  
かといっても、ほとんど一緒にお酒を飲ん  
だ記憶ばかりです。私が三宅さんと関わら  
れたのは、最後の10年足らずの時間でしたが、  
いつもの自宅で、代わり映えしないメンバ  
ーで、いつも同じような会話をしながら飲  
んでいたように思います。三宅さんについ  
て何か思い出すとすれば、その似たような  
風景や会話がほとんどです。三宅さんは周  
りに流されることなく、その反復みたいな  
日常生活をととても大事にされていたように思  
います。三宅さんの人生は人一倍濃いもの  
だったと思うし、時期によって色んな顔が  
あったのだらうと思います。運動華やかな  
りし頃の三宅さんの武勇伝には驚くばか  
りですが、緩やかな反復の日々を過ごす  
晩年に関わられたこともまた自分にとって  
は特別なことでした。

たわら こうへい かい  
田原 孝平 (ペンギンの会 スタッフ)



みやけ  
三宅さん  
しゃんしゅう  
写真集

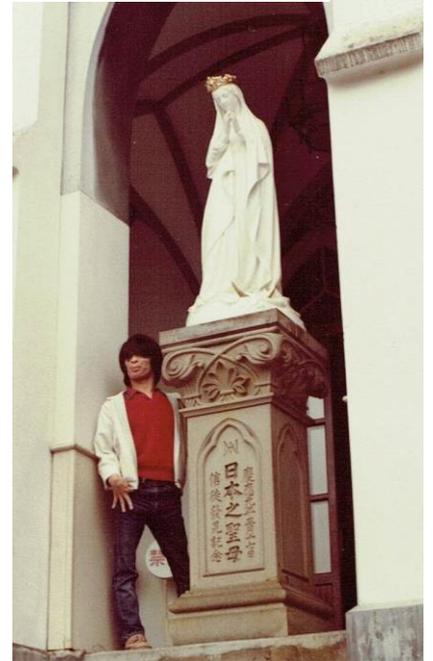


じたく ひ ねん  
自宅にてアコースティックベースを弾く(ふり?) (2014年)

しがけん ねん  
滋賀県マキノにて (2000年)



ようごがっこうじだい  
養護学校時代



じたく きょう ねん  
自宅でテレビゲームに興じる (2014年)

ながさきけん ぞう ねん  
長崎県 マリア像と (1981年)



りょこう まえ ねん  
スペイン旅行 サグラダファミリアの前で (2007年)



ねん  
オムレツに「みつお」のデコレ (2015年)



しんねんかい ねん  
新年会 (2016年)



にゅういんちゅう さくら き まえ ねん  
入院中 桜の木の前に (2014年)

もう忘れられてく…  
みたいになってるんでしょうか…？  
さがみはら  
相模原…

ユグチマコト

まず以下に、ある散文の一部を少し…。  
過去に記してきた文章を漁っていたら、  
8年ほど前のものが出てきました。

あなたはいつまで自分の障害に眼を反ら  
していられますか？

あなたはどこまで他人の障害を見て見ぬ  
ふりができますか？

別にそれでも生きて行けそうな世の中です  
だけこの世は気づかぬうちに…

そこまでひどいことはしないだろう  
でもなにくわぬ顔をして、それは背後に迫  
ってる

原油は高騰 物価は上昇  
賃金は不払 介護は不足

どこも行けない なにも買えない  
文句も言えない 誰も出会えない

苦しみが産んだ力は本来向かうべきところ  
に向かわず

まがまがしき刃となつてさらに弱きもの  
へと突き刺さる…

これは、いわゆる“リーマンショック”前  
後の2008年夏に、JGIL主催の  
『大当事者デモ』のチラシに載せる文章

を依頼されて、ユグチが書いたものの一部  
です。

障害当事者には自分たちは“殺される  
存在”という危機感から、文章などでは、  
それが仄見えるような言葉を書いてしまい  
がちです。

この夏、“殺してもいい存在”だと、こ  
とに身勝手な犯人の認識のもとに振るわ  
れた兇刃で、いくつもの“殺されていい  
なんて絶対はない”命が理不尽に奪われ  
ました。

“殺される…”という危機感は、妄想で  
はなく、やはり本能から来ているもので、  
悪しき力満ちた存在の心に魔が差せば、  
自分たちのような存在はたやすく命を奪  
われる……。

障害者が抱えていることはそうはズレ  
ていません。

で、実際に事件が起きてしまうと、当然  
ながら「関係ないわ」なんて思えるわけが  
なく、亡くなった方々への悼みや、大切な  
ひとを失った関係者の悲しみや、犯人へ  
の憤り…とは真逆の世間の反応はどん  
なものなのかという恐れにイヤでも苛ま  
れ出しました。

某福祉番組で紹介された話ですが、  
障害児のお子さんをもつ母親が、移動中  
の電車で、年配の女性数人のこんな会話  
が耳に入ってきたそうで、「障害者施設つ  
て、国がお金を出して作ってるのよね？世  
の中の役に立たない人にお金をつかって

もねえ 容疑者が言ってるように 親が認めれば“安楽死”って案外間違っていないわよね 何かしらの理由で子どもが亡くなって 親御さんもホッとしてるんじゃないの」。

70年代に、生活苦から当時2歳の障害児を殺害した母親への同情から、減刑嘆願運動が起きたことに対して、『青い芝』が断固、抗議に立ち上がった頃と何が変わったのか、という会話が50年近く経った今でも…。

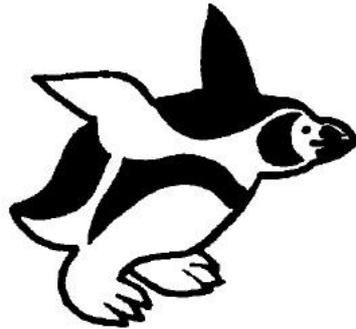
こんな調子で、私たちの外出時でも、たとえばバスに乗るとき、「この人たち（障害者）が乗り降りするのに、いちいちスロープ出して、結局時間がかかるのって何とかならないのかしら」なんて思っ

ている人のことを以前よりも強く考えてしまっている自分がいます。

とにかく事件の後からは、以前から持っているそれに加えて、さらに違った角度からの危機感が確実に増えてしまいました。

今回ばかりは、そう短い時間のうちに、「こんなことがあっても、私たちは決して負けずに……」みたいなことを簡単に言うことはとても難しいです。

※相模原の事件について、できれば、詩もしくは散文でという形で書く予定だったのですが、昔書いてた文章が、偶然にも今回の凶事と結構シンクロしていたことに我ながら驚いてしまって、こうした形になりました。どうか悪しからず。



じりつしょうがいしゃ かい  
自立障害者グループ ペンギンの会

〒612-8411

きょうとしふしみくたけだくぼちょう ばんち  
京都市伏見区竹田久保町62番地

あだち たけだ ごう  
足立ハイツ竹田132号

ちかてつからすません ぼしえき とほふん  
(地下鉄烏丸線 くいな橋 駅 徒歩4分)

でんわ とも  
電話 : 075-755-8177 (FAX共)